

# 愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp

## しまの 若夫婦さん

### いろいろしゃべり!!

松山離島振興協会

設立5周年記念事業

## 「木婚式」



結婚5周年のご夫婦へ贈る木工作品の下絵。たなかあつしさんの温かい人柄が生きた素敵な作品です。「木婚式」にちなみモチーフは豊かな手輪の刃の味……。



『わらんべ工房』

今年度は、念願の松山島博覧会が本格開催され、多くのみなさんに島へとお越しいただいています。その陰で、出迎える側の島民が、これまでと大きく意識を変化させ、今まさに、「ココぞ」の踏ん張りを見せていることは、島が未来や希望を失っていないことの証であります。

さて、平成十八年四月の設立以来、四年半に及ぶ活動を行ってきた松山離島振興協会がこれまで実施してきた事業は、島外の方を島へ呼び込むことばかりに執心し、結果、島内への投資がややおろそかになっていた気がします。そうした気付きの中で、節目の五周年を前に新たに発想したのは、島に住む若い人たちの応援ということでした。島の将来を担う島の若い夫婦を応援することで、定住促進を図り、島のにぎわいにつなげていきたい。そのための事業として考えついたのが、協会の五周年とひっかけた、結婚五周年の夫婦を祝う事業です。結婚五周年の記念日を『木婚式』といいますが、協会では、島の木工作家であるたなかあつしさんに依頼し、『木婚式』にふさわしい木工作品を制作いただき、五周年を迎える、あるいは迎えたご夫婦に、記念品として贈呈したいと考えています。協会の田中政利会長の実弟であるたなかあつしさんは、上怒和地区の出身で、長らく旧川内町（現東温市）の廃校跡を拠点に制作活動に勤しんでおられましたが、現在は大浦地区にアトリエ「わらんべ工房」を構えられ、島の芸術家として多方面で活躍中です。

協会が、初めて島民に向け実施するこの『木婚式』事業に該当されるご夫婦は、協会までご連絡ください。自薦・他薦は問いませんので、周りの方がご連絡いただいたのでも結構です。ただし、ご応募は島在住のご夫婦に限らせていただきますので、その点はご了承ください。

島の子どもを産み育ててくれる若夫婦を応援し、子どもたちの声が響く環境が再び訪れることを期待しつつ、今後も島の活性化のための事業を展開してまいりますので、協会活動へのご協力をよろしくお願いいたします。

# 三津浜の花火を唄

—船上ビアガーデンで  
真夏の夜の夢を体感！—



しまの名物料理  
『鯛そうめん』

しまはく名物  
『しまめし弁当』



松山の夏の風物詩、三津浜の花火大会。毎年、松山の夏の夜を彩る、四国最大級の八千発の大輪の花々は、市内各地から訪れる多くの観客の心をわしづかみにして放しません。その華麗な花火の催しをゆつたりとグラスを傾けながら、しかも海の上から眺めようというのが、今回の【船上ビアガーデン】の企画でした。

そんな協会の思いを、実際に企画し実現してくれたのは、協会理事である中矢取締役のおられる石崎汽船さんです。石崎汽船の募集に、二〇〇人の定員はあつという間に埋まり、スタッフである協会メンバーもその数を絞り込んだほど。本企画を楽しみに応募されたみなさんが、高浜港に着岸したフェリー神和に乗り込みます。十八時、船は、一路 由利島へ向け出港しました。

出港した船の車両甲板で、参加者はお弁当とお茶を受け取り、サービスとなつている生ビールにもさつそく口をつけます。協会メンバーは、その車両甲板で島の特産品売場や飲み物コーナー、かき氷コーナーなどの船内売店部門を受け持ち、事業をサポートしました。

出港して間もなく、中矢取締役から参加者のみなさんへの歓迎のあいさつの後、共催ということで協会を紹介いただき、田中会長が島博覧会の紹介など行いました。

それからしばらく航行すると、やがて前方に由利島が見え始めました。二百人もの参加者ですが、無人島である由利島へは、さすがに行つたことのない人がほとんど。着岸施設のない島には、上陸こそできませんが、間近に見る由利の姿に、みなさんからは歓声にも似た声が漏れ聞こえました。

そうこうしているうちに、青空は夕焼けの橙色と入りまじり、やがてその端々から藍のベールがかかり始め、辺りは宵闇へと包まれていきます。その闇に星が輝き始めた頃、船は三津浜港内へ。船の傾きに配慮し、船尾を打ち上げ場所へ向け、停船操舵を続け、船は花火の打ち上げを待ちます。ぴゅーっという独特の打ち上げ音に続き、音と光の芸術が一斉に花開き、花火大会の幕は切つて落とされました。

協会が運営した売店では、睦月島の田中理事が、島内の食事処「海遊亭」を出張開店し、岩ガキとサザエを実演販売。新鮮な魚介の販売には、終始、行列が絶えることなく完売。船上の海鮮レストランは好評



船上から見る、美しく賑やかな花火の競演にみなさんが大満足！



でした。また、協会が販売する焼酎には、氷柱から切り出したかき氷用の大きな氷をかち割りに入れて入れて入っているとあって、左党のみなさんにはずいぶん好評を得たようでした。

自力ではありませんが、念願の【船上ビアガーデン】の夢が叶い、協会事業もバリエーションが広がったと感慨もひとしおです。今後も、さまざまなニーズに応えられるようチャレンジ精神で臨んでまいりますので、ご注視ください。

# 平成22年度 大人の修学旅行 を開催します



『忽那ロマン』あふれる旅をご提供する大人の修学旅行に乞うご期待!!

昨年、協会が発案し、松山市の『坂の上の雲フィールドミュージアム活動支援事業』のバックアップをいただき実施した『大人の修学旅行』。忽那諸島のうち、これまで市民があまり訪れることの少なかった諸島群の西側の島々を舞台に、定期船利用の行程をご提案。すべての良し悪しをお判りです。別もあり、探究心も旺盛といった大人のみなさん方に、島の旨味、滋味を十分に感じていただこうというのが、協会一押し体験型宿泊事業『大人の修学旅行』です。

前年度、参加のみなさんからは、「島の時間はのんびりで、ゆったりにできてよかった」「魚も野菜も、とにかく食べ物美味しかった」「潮の香りと、出会う人という人の優しさがいいね」とのありがたい声、声、声をいただきました。今年も、そうした声に応えるべく、昨年の企画をさらにパワーアップさせた企画をご用意しました。

高浜港を出港し、初日は二神島から津和地島へ、そして宿泊、夕食。翌日は怒和島へと赴きます。西側の島の持つ海域は、瀬戸内有数の漁場であり、海上交通の要衝でもありました。大海原を股にかける繁栄を築いた忽那の民になりきって、ミニ・クルーズに繰り出すのが今年のニュープラン。船はそのまま、山口・広島・愛媛の三県の県境海域まで達します。

『忽那ロマン』は、今後、協会がもっとも突き詰めたいと考えるテーマ。島の生活を築いた先人の知恵と工夫に満ちあふれた暮らしを探り回顧することで、島の新たなジャンプ・ステップの糧とするつもりです。そうした島の面白味の部分を感じていただき、島のサポーターとなつていただける方が少しでも増えることは、島の方たちにとつて、百人力の後押しに値するものと考えています。

今年の『大人の修学旅行』は、十月十六日、十七日の二日間。参加費は昨年より多少アップの一万九千八百円。スーパの特価のよいうな数字ですが、決して損はさせませんので、ぜひご参加ください!!

## 境内の宵間に薪のかがり火がふたたび

### しまはく秋フェスタ in 興居島 at 和氣比賣神社



昨年、島のみなさんの熱い思いから実現した、かの伝統芸能のアレンジバージョン『薪船踊り』。伊予水軍の武勇など興居島独特の文化を紡いできた民俗舞踊の「船踊り」を船越和氣比賣神社の境内で、しかも燃え盛る薪のゆらぐ火をバックに、担い手の両雄である興居島船踊保存会と小富士文化保存会が共に繰り広げたことが島内の異常なまでの盛り上がりとなり、また島外のみなさんからの予想以上の関心と感動を呼び、再びのお披露目を求める声が高まりました。

そうした反響をさらに盛り上げるべく企画されたのが、『しまはく秋フェスタ in 興居島』での再演。来る10月23日土曜日、千年以上の歴史を持ち、興居島のしまびとにとって特別な意味を持つこの「船踊り」を、秋の夜長、島の総鎮守の境内で、かがり火の幽玄と共に味わってみませんか。興居島の食の醍醐味も同時に体験できるイベントです。この機会を逃してはいけません。もう一度、あの興奮を感じたいあなた、初めてその感激にふれることになるあなた。忽那諸島でもっとも身近な島、興居島で、中世のロマンを今に伝える、**勇壮華麗、豪華灼熱なしまの宝『薪船踊り』**をぜひご覧ください。詳しくは、松山市企画政策課、または協会事務局までお問い合わせください。

## 【地域産業部】

忽那一族が栄えた時代、彼らの能力は潮見と船の操舵技術、さらには開墾の技術習得にもおよび、島内はおろか松山市沿岸部でも、しまびとが生き延びられるよう、持続可能な活路を確実に見出していったようです。

やがて、塩入荒野の業を一族の繁栄のためものとし、ひいては島嶼部の発展のために拡大していった先人の鋭い先見性と、同時に血のにじむ労苦には、私たちは、感謝と畏敬の念を捧げるほかありません。これら先人の道のりを「**忽那ロマン**」と称し、今後、皆で共に語り継いでいきたいものです

《お問い合わせ・お申し込み》

会長 田中政利

TEL999-0524



## 【観光振興部】

昨年、初めて実施した体験型の宿泊事業『大人の修学旅行』。ご夫婦や友だち同士のお申し込みに加え、おひとりでのご参加もありましたが、そこは修学旅行のこと、団体行動の中にこそある楽しさをみなさん感じていただけたようで、和気あいあいの中、別れを惜しんだものです。

今回の『大人の修学旅行』では、怒和島の体験メニューである「漁船ミニクルーズ」を新たにメニューに取り入れ、協会一押しの「**忽那ロマン**」を、ご参加のみなさんにぜひ味わっていただきたいと考えています。

《お問い合わせ・お申し込み》

副会長 古野真理子

TEL998-0243



## 【しまづくり部】

先日、9月定例会で興居島を訪れた時のこと、新築の家の枠組みがほぼ完成しているのを見受け、とてもうれしく思いました。話によると、その方は島外から越してこられたとのことで、ますますうれしくなってしまったわけです。島にゆかりの方、あるいは、島にはまったく縁がないけど思い立ったという方、俗にいうUターン・Iターンということですが、島に人が増えることは大歓迎ですし、それが若い人であれば、なおうれしいものです。そろそろ、「**忽那ロマン**」に心惹かれ移り住む人が現れる頃かもしれません。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 内藤久司

TEL998-0606



しまの活性化について **みなさんのご意見求む!**

<http://iland-matsuyama.infoseek.ne.jp>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆